

平成 30 年度 兵庫県外国人県民共生会議議事録

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 29 日 (月) 13:00~14:30
2 場 所 兵庫県公館 3 階 第 1 会議室
3 議 題 2030 年の展望
～外国につながりをもつ子どもたちの教育・進学・未来～

○発表 1

韓国につながりをもつ子どもたちの教育・進学・未来

在日本大韓民国民団兵庫県地方本部

○発表 2

ブラジルにつながりをもつ子どもたちの教育・進学・未来

NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ

【意見交換】

◇構成団体 1

- ・発表の中で、母語と日本語の共存が保証される社会が必要であるとの発言がありましたが、正にそのとおりだ。
- ・発表の中で、外国人の児童は生まれながらにしてグローバル人材になる可能性を秘めているとの発言がありましたが、正にそのとおりだ。
- ・私たちは、教育委員会や HIA といろいろな意見を重ねながら、子ども達が持っている母語や日本語をしっかりと身に付ける環境、また、その環境を強化していくにはどのようにすればよいかについて、アメリカでの取組みを参考に考えてきた。
- ・県では、10 月に発表されたように外国人児童の高校進学枠が 3 つから 5 つに拡充され、また、芦屋国際のような全国的にも先駆的な取組みが実施されている。
- ・母語か日本語かだけではなく、子ども達が、グローバル人材として活躍できるため、基盤となる強い言語（ストロング ランゲッジ）をしっかりと身に付けていける教育の取組みを、我々 NGO と連携して進めることができれば、2030 年は明るいものになる。

○事務局 1

- ・どちらの言語も自由ではないというのは事実であり、きちんとコミュニケーションを図ることができる強い言語の必要性はご指摘のとおりである。

◇構成団体 2

- ・1991 年の入管法の改正から 27 年が経過している中で、在日コリアン、華僑、ニューカマーの教育を考えた際には多くの問題がある。
- ・公立学校の中では、母語・アイデンティティだけでなく、学習能力の問題がある。
- ・高校進学の壁になっているのは学力であり、北米やヨーロッパで実施されている放課後や個別授業といった特別な支援を兵庫県の中でどれだけ実施できるのかによる。
- ・日本人の保護者の中に、人種主義やナショナリズムがかなり蔓延しており、そうした親に対する取組みも必要である。
- ・異文化教育、多文化教育と言われている中には、ベトナムの児童を見れば、ベトナム語が喋れるといった単なるステレオタイプがある。

- ・1991年に日韓条約が締結され、日本の公立学校の教員に外国籍者が採用される流れができ、兵庫県でも1992年から外国籍の教員が誕生した。この方々は外国にルーツをもつ教育人材ですが、27年が経過した今でも、教諭ではないため、主任・教頭・校長になれない状況になっている。
- ・ベトナム国籍で兵庫県の教員になったが、後に日本国籍を取得して、日本名に変えた方がいる。日本名に変えた理由を聞いたところ、教頭や校長になれないからである。
- ・在日コリアンで、第一号の教員になった方がいる。現在50代になっているにも関わらず、学校で主任にもなれない状況で、学校運営にも支障をきたしている。
- ・教員の常勤講師問題については、国連人種差別撤廃委員会からも改善勧告が出されている。
- ・外国籍教員は常勤講師であることを理由に学校運営の中核に携われない状況は、大いに問題があるのではないか。文部科学省との問題もあり、兵庫県として英断をするのが難しいかも知れない。
- ・しかし、教育現場でこれだけニューカマーの子ども達が増えていく中で、本当に、外国にルーツを持つ教育人材の活躍や活用を考えた場合、昇任（主任になれない、教頭になれない等）に関して知恵を出し、例えば、教育委員会の中に、多文化教育主事を設置するなどの対応ができるのではないかと。また、主任に関しては、公にはなっていないが、主任になっているような都道府県もある。
- ・兵庫県は外国籍教員を採用しているが、その人達を活用し、その人たちが活躍できるようにするためにも、常勤講師の問題について一歩踏み込んだ対応をお願いしたい。2030年に向けて最も必要なことである。

○事務局1

- ・昇進できない（教頭や校長になれない）ことは、意思決定の中に入れないことを意味している。
- ・このような問題に対し、常に一部の人から「帰化すればいいのではないかと」と意見が出る。国籍を変えることがどれだけ大きな意味を持つかを理解していない。
- ・例えば、日本人がアメリカの永住権を取得するために、日本国籍をなかなか捨てることのできないのと同じである。

◇構成団体3

- ・多くのスペイン語圏の人が日本に住んでいるが、その中で一番大きいのがペルーのコミュニティで、約5万7千人が日本に住んでいる。
- ・私たちペルーのコミュニティは、来日してから27年が経過している。我々が活動を始めて18年になるが、一番印象に残っている出来事がある。
- ・長田区に住んでいたペルー人のお母さんが、高校に進学する子どものことで相談に来られた。学校から子どもが高校に進学できないとの連絡があったが、その理由が分からないとのことであった。
- ・子どもを毎日、小学校、中学校に通わせ、高校受験をさせようとしたが、日本語能力に問題（漢字の能力：小学3年レベル）があるとされた。
- ・日本の教育システムと私たちペルー（南米）の教育システムに大きな違いがある。南米の教育では、小学校から合格しないと次の学年に上がれないシステムになっている。
- ・小学校の先生に確認すると、学力に問題があっても、「お子さんは頑張っていますよ。」としか言われなかった。
- ・日本では小学校の学習内容を理解せずに中学校に進学すると、大きな問題が生じるが、親が外国人であるため、その状況を確認することができなかった。
- ・日本の教育システムや子どもの状況について、親にきちんと説明する必要がある。
- ・高校・大学に進学するのは、ペルーコミュニティの中で10%未満である。

- ・日本の未来を考えた場合、外国人の子ども達には大きな可能性があります。その可能性を活かすためにも、もっと多くの支援が必要です。
- ・今の兵庫県のサポーターシステムは、外国から来た子ども達を対象に支援を行っている。しかし、日本で生まれ育った子どもでも、親が外国人である場合、学校でのサポートが必要なこともあるので、ご検討をお願いいたします。

◇構成団体4

- ・私たちは、母語であるベトナム語を教えているが、ベトナム語を勉強しなくても良いと考える家庭が増えている。
- ・公務員を目指している子ども（小学3年生）がいて、始めはベトナム語の勉強を嫌がっていたが、「日本語、英語、ベトナム語ができるようになれば、採用の際に有利になるよ。」と話したら勉強するようになった。このようにきちんと説明することが非常に大切だと感じた。
- ・ベトナム人の子ども達も、高校進学が大きな壁となっている。
- ・最近、「日本のいい大学には行けず、また、経済的に私立大学にも行けないのでどうしたらいいのか。」との相談を受けることが多くなった。
- ・その相談に対し、ある程度ベトナム語が喋れることからベトナムに留学することを進めている。その理由は、ベトナムでベトナム語をしっかり勉強すれば、日本語ができるので、日本に戻ってきても仕事があるからである。
- ・子ども達には、ベトナムと日本の架け橋になって欲しい。

○事務局1

- ・若いときに留学することは、グローバル人材の育成に直結する。

◇構成団体5

- ・兵庫県には朝鮮学校が6校あり、在日4世、5世、約800人が通っている。
- ・民族学校は、大変な思いをしている。端的に言えば、高校無償化などの課題がある。
- ・朝鮮学校の教育内容については、多くの偏見等があるが、事実を知っていただきたい。
- ・朝鮮学校に対するイメージとして、反日教育、洗脳教育等があげられるが、例えば、拉致や領土問題については、両方（朝鮮、日本）の見方を教えている。
- ・生徒には、「今は一番厳しい時代だが、両方の文化と歴史を知っている君たちは、日朝友好、朝鮮半島と日本の友好の架け橋になれる貴重な存在である。今は、偏見等があるが、将来、必ず解決される。」と言っている。
- ・卒業生は1万人いるが、日本の市民として共生しており、日本の発展にも寄与している。
- ・垂水にある高校は、自治会の方々と年間を通じて交流している。特に、年末の餅つきは、高校生がいないと成立しないぐらいである。日頃交流している地域の方からは、「何の差別・区別もなくなったらいいのね。」と声を掛けられる。
- ・今後、民族学校に対する施策等について考えていただきたい。

◇構成団体6

- ・私の経験（日本在住40年）上、グローバル化で言えば、英語が一番大切である。
- ・英語により、100%ではないけれども、日本人と外国人の壁が薄くなる。
- ・グローバル化を言うだけでは、何も意味がない。「服（民族衣装）を着た。ヨーロッパの食べ物を食べた。」だけでは、グローバル化は難しい。

- ・私は色々な国に行ったが、5人に1人ぐらいは、英語を理解してくれるので、壁を感じたことがない。
- ・インドもある意味、ヨーロッパのようで、インド人の8割程度は英語を理解することができる。
- ・インディ語、ヒンディ語をインドの母語と思われているかも知れないが、現実はそうではない。
- ・英語にもっと力を入れて欲しい。

◇構成団体7

- ・華僑は、ニューカマーが増えてきているが、オールドカマーが多い。
- ・華僑も、本日皆さんがご発言されたような問題を抱えている。
- ・オールドカマーについては、アイデンティティの育成が大きな問題になっている。
- ・華僑には同文学校あるが、公立に通っている子ども達が、多国籍やハーフであることを学校の中で自信を持って言える環境が整っているのか、社会に出て、それを受入れてくれる環境になっているのか、受入れるような教育ができていっているのか非常に気になっている。
- ・将来的には、彼らが自信を持って自らのルーツを言え、それを受入れる社会を目指していきたい。

◇構成団体8

- ・我々は、企業から海外赴任で神戸に在住している短期滞在の子ども達とふれあいを持っている。そのような子ども達は、複数の国を回っており、また海外に出て行く。
- ・外国から神戸に居住される方々に、生活情報を提供し、日本の文化を学んでいただいている。また、逆に、外国の方から私たちが文化を教えていただく、異文化交流の場として活動している。
- ・子ども向けには、ミュージックアミューズメント、イングリッシュプレイグループ等のクラスを毎週開催している。
- ・この週末には、ハロウィークラスや、日本のお菓子をいただくクラスなどの活動をしている。
- ・毎週金曜日に、国境を越えたママ同士の悩みの解消や情報交換の場を提供している。
- ・ストーリータイムという読み聞かせの場も提供し、子どもの教育や成長に資する活動を行なうとともに、ママ達の心のケアも実施している。
- ・書道家の先生をお招きして、大きな筆で書道パフォーマンスを行っており、子ども達から好評を得ている。
- ・子ども達は、母国に帰る方が多いが、日本をしっかりと思い出として持ち帰ってもらいたいとの思いを込めて様々なプログラムを実施している。
- ・近年、海外から来られる方が減っている関係で、資金繰りが難しくなっている。
- ・海外から来られた場合、住まい・学校を第一に考えるが、次に医療・緊急対応の病院に関する情報が必要になってくる。子ども病院も専門科が少なく、英語での対応も求められるが、英語表記がない、通訳を自分で用意しなければいけないのが、今の現状である。
- ・国際学校のチョイスが少ない、街に出ても英語表記が少ない、レストランに行っても英語を理解してもらえない。最低でも、レストランでは英語メニューの義務化をお願いしたい。
- ・日本は地震・台風など自然災害が多くよく警報が出るが、日本語の表記の後に必ず英語でも表記をして欲しい。

◇構成団体9

- ・私たちは、主に大人の外国人からの相談に対応している。
- ・しかし、かなり複雑な子どものビザ関係の相談や、DVから逃れるため子どもを抱えてくるお母さんの対応がある。

- ・私は〇〇〇センターで勤務しているが、その日本語教室に、口コミで知ったのか、カナディアンの子どもが来ている。
- ・国が新しい制度を作るのはいいが、「5年（を上限）にして家族は呼び戻さない（家族の帯同は認めない）」といったことは考え直して欲しい。我々外国人を支援する側からすれば、日本で普通に暮らしていける外国人がいて、その方々と共存していける環境を構築していきたいと思っている。

◇構成団体 10

- ・11月11日、中華同文学校において、「世界のふれあい広場」を開催します。多くの方の参加を期待している。
- ・当日は、各国の食事、スポーツ、踊り等で楽しい1日を過ごしたいと考えている。
- ・これは、兵庫県が提唱している多文化共生社会の実現に資するものであると思っている。
- ・現在、国連に参加している国は196カ国で、兵庫県に在住する外国人は141カ国と2/3以上となっている。
- ・恐らく、日本の他の都道府県で2/3以上になっているところはない。換言すれば、多くの外国人が兵庫県は住みやすいと思っている現れであり、兵庫県の外国人に対する支援、理解、努力の賜である。
- ・今後も、兵庫県の多文化共生社会の実現の考え方を堅持して欲しい。
- ・外国人学校では、それぞれやり方は異なるが、県の多文化共生社会の考え方を具体化するために努力している。地域社会に貢献し、そして、地域の人々との交流を密にしている。
- ・今日のこの会は、兵庫県の各団体に対する思いやりの現れだと思っている。

◇構成団体 11

- ・それぞれの市の外国人の子ども達に対するサポートが不十分だと感じております。例えば、△△市など。
- ・兵庫県がサポート制度を実施して20年を過ぎている。それを続けていただいていることで、子ども達の何人かは大学まで進学できている。この支援は本当に必要です。
- ・学校の先生達、これから学校の先生になる人たちには、もう少し外国人に対する知識を持って欲しい。
- ・先生達は、日本人だけに教える形になっている。外国人は沢山いますので、外国人に対応した教え方を実施して欲しい。
- ・大学時代、或いは先生になった後にもっと研修をし、当事者達の話聞いて、外国人の子ども達に対応して欲しい。そうしていただければ、2030年には、子ども達は良い人材になっていると思う。

◇構成団体 12

- ・韓国民団は、子どもへの日本語教育よりも、在日韓国人に対するアイデンティティ育成教育の方が関心が高い。
- ・地域及びコミュニティの教育事業として、韓国民団兵庫県本部は、現在3カ所で子ども土曜学校を運営するとともに、中高生に対しても、韓国語や民族文化教室も開講している。
- ・日本の公教育において我々が求めるものは、母語教育を始めとするアイデンティティの育成である。現在、公教育での外国人生徒に対する兵庫県の施策は、新渡日の生徒を対象とした日本語教育が中心となっている。

- ・一方、母語学習の施策は、新渡日の生徒に対する母語教育支援事業、外国人コミュニティ母語教育支援や子ども多文化共生サポーター制度等があるが、これらは、日本語が不自由な外国人生徒が、日本語を習得する際のコミュニケーションツールとしての側面が強い。
- ・母語とは、生まれて最初に覚え、最も頻繁に使う一番自己表現ができる言葉であり、外国人にとっては、アイデンティティにつながる母国語の意味合いがある。
- ・母語と日本語は共存することが必要で、少なくとも10代の間は、2つの共存が継続されるべきであり、そのための教育施策が必要です。
- ・2年前に成立したヘイトスピーチ対策法は一定の抑止力を果たしているが、ネット上でのヘイトスピーチはむしろ悪化している。
- ・ネット対策については、兵庫県でも対応いただいておりますが、全体としてはまだまだ不十分である。今年、国連人種差別撤廃委員会でも、日本のヘイトスピーチ対策は十分ではないと再勧告を行い、包括的な差別禁止法が必要と結論づけている。
- ・SNS上ではヘイトが拡散しており、子どもに対し甚大な悪影響が生じている。
- ・日本人の子どもがヘイトスピーチの加害者になり、在日韓国人の子どもが、被害者になるようなことが学校現場で決して起こってはいけない。公教育の現場において、差別と偏見をなくす環境づくりを行っていくことが求められる。

○事務局1

- ・母語、母国語は、子ども達のアイデンティティの確立に非常に重要である。
- ・学習支援について、枠を作っても、特別学校を作っても、入った後になかなかついていけない実情に対して、どのように対応していくべきかが課題になっている。
- ・教員の管理職の問題も提示された。
- ・日本で生まれ育った外国の子ども達にもサポートが必要であることが提示された。
- ・高校に進学する上での経済的な問題、高校に入るための情報、全日制の高校に行くことがなぜ良いのか、なぜ大学に行くことが良いのかといった情報も課題である。
- ・留学は、グローバル人材の育成には非常に重要であるとの指摘もあった。
- ・先生の研修は非常に重要なことで、現在も実施されているが、もっと充実させることが必要との指摘があった。
- ・サポート支援に関しても対象を広げるなどの対応が必要との指摘があった。
- ・上述の内容については、今すぐに県で対応していただけるものと考えている。
- ・上述以外にも、周りの環境整備についても、教育施策と平行して取り組んでいただきたい。
- ・偏見やステレオタイプのお話があったが、これらを取り除くための県民への啓発活動が必要との指摘があった。
- ・医療や通訳の問題については、機会を改めて議論していく必要がある。
- ・外国人の受入れ政策、特にビザに関係してくるが、子ども達が落ち着いて勉強できない、或いは、子ども達が怯えることがないような対策が必要である。
- ・民族学校の授業料無償化について、いろいろ判決が出ているが、社会全体として、兵庫県としても意識改革が望まれる。

○事務局2

- ・色々な角度から貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。
- ・子ども達を巡る環境をどのようにしていくのかについては、非常に重要な問題です。
- ・今まで兵庫県は日本語教育の充実と併せて、母国語の教室も充実して、日本育ちの子ども達に母国の言葉と文化をどのように身につけてもらうかに気をつけてきたつもりでしたが、今日の話

聞いて、まだまだ力を入れていかないといけない部分があると承知させられた思いです。

- これからという国もありますので、このような国に対しても、母国語教育と日本語教育を推進していきます。
- 日本語教育の方は主として教育委員会、母国語教育の方は主として国際交流協会が実施してきたが、この二つが縦割りで、共通土俵に乗っていないところがあるので、お互いに連携して、それぞれ補完するようにして欲しいと思っている。
- 幸い、国際交流協会の理事長が前教育長ですので、一元化を図るための良い体制ができたのではないかと考えている。
- 今年はいろいろな方から、「朝鮮学校への対応、兵庫県は厳し過ぎるのではないか。」との指摘を随分受けているので、どのような形でどのように対応したら良いのか、予算編成過程の中で十分に検討していきたい。特に教員資格について、どうも実現不可能な要件を設定しているようですので、ここは十分検討していく。
- ICT上のヘイトスピーチやフェイクニュースにかかる問題は、現実としてある。これをどのように対応していくかについて、一つの機関が対応すれば良いというものではない。
- この会議が良いのか、或いは、皆さんが自主的に集まっていただいて我々に情報をいただく相談窓口を作ることを考えてもいいのかなあと考えている。
- 公立高校については、少ない枠ですが、入学の枠拡大に努めている。
- 高校授業料の無料化の制度がそのような枠の拡大にも貢献していると思っている。今後、私学についても広がるので、どのように活用していくべきかということになる。
- 朝鮮学校の無償化対象の裁判が何故負けたのか、私には全然理解出来ないの、これは最後まで戦い抜くべきだと思います。どういう論拠であのような判決が出るのか、全然理解出来ない。しっかり取り組んでいただければと思う。
- 本日、非常に多くの提案をいただきましたので、我々も消化し、制度化したり、事業で取り組めるものはしっかりと取り組んでいく。